

平成 27 年度 福祉学科  
自己点検・評価報告書

目 次

[Ⅰ. 教育]	…1
[Ⅱ. 学生支援]	…5
[Ⅲ. 地域貢献]	…7
[Ⅳ. 入学者の確保]	…8
[Ⅴ. マネジメント体制]	…9

平成 28 年 3 月  
富山短期大学 福祉学科

## [ I . 教育 ]

### 1. 教育の「質向上」と「質保証」の徹底

#### (1) 【学位授与方針の実現とその点検・改善】

学位授与方針を変更し、学科が育成する人材像の「福祉に関連するさまざまな分野」を「福祉に関するさまざまな分野」に訂正した。併せて、能力基準別到達目標（学修成果）も見直し、修正あるいは追加など必要な対応をおこなった。

Web シラバスの点検は、学科長と教務委員を中心に実施した。より良い授業に近づけられるよう、今後は学科全体で協働して取組んでいかななくてはならないと考える。

「学生アンケート」をもとに学修成果の到達度・変化の把握とその要因を分析したところ、LO3「思考・判断・実践」の項目が低い点が課題として浮かび上がった。

#### (2) 【教育課程編成・実施方針の実現とその点検・改善】

学科の改編に伴い、教育課程編成・実施方針の変更を行った。「介護福祉士養成に必要な専門教育」では、「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3つの領域に、「医療的ケア」を追加した。さらに、「ソーシャルワーク分野」と「福祉ビジネス分野」の追加に伴い、当該分野の科目体系図を作成した。「介護福祉分野」については、改編に伴う変更を反映させた。

科目のナンバリングについては、中分類として「ソーシャルワーク分野」と「福祉ビジネス分野」を追加し、基礎科目の変更を反映させた。以上の変更を踏まえつつ、科目間の前提科目・後継科目の関係も見直して、カリキュラム・マップに反映させた。

#### (3) 【専門職業・地域基盤人材養成機能の充実とキャリア教育の強化】

専門職養成課程等専門教育の点検については、厚生労働省 東海北陸厚生局の養成施設等指導調査が平成 27 年 9 月 1 日に実施され、書類の調査並びに校舎各室への立ち入り調査が行われた。

介護福祉士資格、基本研修終了（医療的ケア）、社会福祉主事任用資格、普通救命講習Ⅱは、41名の2年生全員が取得した。その他の資格取得は、レクリエーションインストラクター17名、福祉住環境コーディネーター3級2名であった。学力向上は勿論のこと、各種の資格取得のための選択専科を履修する指導が必要と考えている。

介護技術の基本が卒業までにどの程度習得されているかを測ることねらいとして、卒業前の2月に介護技術の到達度テストを2年生全員に行なった。2年生では介護実習に2回施設に出向くが、生活支援技術の習得レベルにはばらつきがある。また、生活支援技術の基本的な習得は、授業では前期のみである。後期にはほぼ実技を行っていないため、知識と技術を統合させて行うことが難しいのではないかと考えられる。学生が技術面でも自信をもって卒業できるよう、2年後期に補講を行うことが必要だと考えられる。

介護実習は、2年間で450時間行っている。実習目標が明確でない学生や身体面・精神面に配慮が必要な場合には、個別指導も行った。実習先は学生の居住地や移動手段な

どから、おのずと限定されているのが現状である。また、施設の種別においても、全員が多様な施設・事業所を経験できない課題がある。

28年度からは、富山県からの委託事業として、腰痛予防に関する内容を実習の中に盛り込むこととなる。今後は、従来の介護実習で不足していること、介護現場と学内での学びに乖離がないかどうか、あるとすればどのような点であるのか、それらを見直し、改善を図っていききたい。

実習施設との連携では、年度初めに実施する指導者会議や実習巡回での指導者との連絡・相談、実習後の各種記録並びに報告会など、それぞれの時期に適切に指導者と連携を図り、より良い実習効果が期待できるようにする必要がある。今後は、個々の学生の学びと成長を評価できるスケールを作成し、活用につなげることを検討したい。

キャリア教育の強化については、教科目「キャリアデザイン演習」と、担任ならびに就職支援センターとの連携が重要である。就職支援センターと連携をとりながら、就職特別講座、就職実践講座を組み入れ、面接の個別指導を行っている。シラバスの内容については、学修成果を反映して、接遇、自己覚知、履歴書の書き方、面接の仕方、施設長や卒業生の講話を入れている。実際の就職・進路支援と結びつくように授業計画を立案している。

担任と科目担当者が連携し、就職情報の早期周知、収集、保護者との連携、学生との面談を重ね、就職希望者は全員就職することができた。そのうち、公務員には3名（高岡市 - 福祉総合職、南砺市 - 介護職、射水市 - 一般事務職）が採用された。進学ならびに編入学については、富山国際大学子ども育成学部1名、専門学校（消防官コース）1名であった。今後は、学生の個別性に対応できるよう、保護者とも早くから連絡をとり、適切な就職先を選択できるようにすることが課題である。

#### (4)【教養教育の充実】

教養教育の充実を図りたいが、介護福祉士養成課程における指定科目の縛りがあるため、時間的にその実現は容易ではない。また、毎年実施している学外研修の目的に、文化・歴史施設などの見学をいれた。

初年次教育・導入教育では、32名の推薦入試合格者に対し、レポート課題の添削を行った。本年度は、学科改編による「福祉ビジネス分野」の追加に伴い、従来の高齢者へのインタビューと調査・考察だけではなく、ビジネスマナーの調査・考察の課題を追加した。

教育課程外における教育プログラムに関しては、20年度から学科全体の活動として取り組んでいる、通称「GP活動」が挙げられる。平成27年度もこれまで同様に1・2年生全員を健康体操、伝承交流、おしゃれ班、レクリエーション活動班、在宅介護班の5つの班に分け、通年で活動を展開した。しかしながら、学生の主体性に任せる部分が多く、担当教員の指導のあり方に課題を残した。

## 2. 学生の「主体的学び」を促進する教育の推進

### (5) 【授業内容・方法の点検・改善】

アクティブ・ラーニングの方法である発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習など多様な方法を取り入れている科目は、専任教員が担当する全科目 64 科目のうち、41 科目（全科目の 64%）である。しかし、Web シラバスにおけるアクティブ・ラーニングの当該項目にチェックを入れていないため、統計には反映されなかった。予習・復習という授業外学修を積極的に取り入れ、意欲的に学修できるよう授業改善を図る必要がある。

福祉棟の実習スタジオについては、介護福祉の実習科目で活用されている。学科の貸出用ノートパソコンも、講義・演習科目においてインターネット調査やプレゼンテーション資料の作成などで積極的に活用されている。また、タブレット端末を機動的に利用することも検討している。

授業外学修時間は、宿題という形式で、さまざまな科目で課題を課している。しかし、どのくらいの時間を費やしてレポートを完成しているのか、課題学習を進めていくうえでの困難など、授業外学習に取り組んだ実績をデータ化していない。それらの授業時間外で学修したことがアンケートに反映されないため、授業外学習時間が非常に少ないという結果を生じている。まずは、どれだけ授業外の学修として課しているのかを確認しながら、学生の学修意欲の向上につなげる工夫をしていきたい。

学生による授業評価レポートは、毎回の授業後すぐに全員が書き込みをしてくれるとは限らず、また回を経るに従い書き込みの人数も減っていく傾向もあることから、いかにして毎回全員に書き込みしてもらうかが課題となっている。書き込みをしない学生は、授業に対しての思い入れや理解度も低いことが考えられることから、まずもって授業へのモチベーションを高める工夫から取り組んでいきたいと考えている。

### (6) 【個別指導の点検・改善・強化】

介護実習と介護福祉総合演習での模擬試験の成績だけは、学生に個別に返却している。教員が直接面談をして、その結果をどう受け止めていくのか、今後どうすればよいのかを含めて指導を行っている。

習熟度別授業や少人数クラス、補習授業など、基礎学力不足の学生に対する取組の強化は 2 科目で行っている。今後はオフィスアワーを活用し、個別指導に努めていきたい。

### (7) 【学習環境の整備】

D106 教室を実習スタジオとして、平成 27 年度に整備した。実技の動作をスクリーンおよびタブレット端末で動画として確認することにより、学修成果が見えやすくなっていることが確認できている。

福祉学科の 2・3 階のフロアには、介護福祉をはじめとする専門雑誌が自由に閲覧できるようにしてある。また、3 階には、過去の総合的研究集、面接・論文の書き方など

書籍・雑誌を配置して、学科内での図書館機能を付与している。

### 3. 地域志向の教育研究活動の増進

#### (8) 【地域志向カリキュラムの充実】

学科の改編でソーシャルワーク分野を設定したことにより、地域福祉論をはじめ富山型福祉特別講座といった地域志向のカリキュラムを新たに設けるところとなった。また、総合的研究では、これまでどおり地域の実情や課題などを取り上げており、四学科では唯一必修の科目としていることと相まって、教育研究活動に明らかに「地域」を取り入れている特色があると言える。

#### (9) 【生涯学習拠点としての機能強化】

公開講座としては、福祉学科の公開セミナー（福祉介護フォーラム）を毎年開催しているが、開催地を巡回させることで、地域社会に貢献できないかと考えている。

卒業生を対象にしたリカレントセミナーを、平成 27 年度は 9 月 18 日に実施した。卒業生が参加しやすいよう今年度から平日の午後に設定した。卒業生への案内は、ホームページとメールによる周知のみであった。本学卒業生のみならず広く参加者を増やすために、今後は施設宛てに案内文を出したい。

#### (10) 【産官学協働プログラムの拡充】

実社会・実践現場で活躍しておられる人を非常勤講師に依頼をして、協働への足掛かりとしている。また、授業内でスポット的に担当してもらう特別講義は、合計 10 回開催している。講義後にレポート課題を課し、卒業後の将来像が具体化するよう、また、より専門職としてのやりがいや役割が理解できるよう依頼していきたい。

#### (11) 【外部評価委員会等の活用】

外部評価委員から、福祉学科の基礎実習の到達目標に関して改善の提案があった。次年度の介護実習の手引きに改善を加えることにした。

平成 27 年度 11 月に実施された「第三者アンケート調査」では、8 割以上の学生が、福祉学科に入学したことを満足していると回答している。また、現在の仕事をしていくうえで必要な能力が、在学中に受けたサポートや教育でいずれも身についたと回答している。十分な成果につながっていなかった調査項目については、授業による学修はもちろん、授業外の学修をとおして身につけられるよう取組んでいきたい。

### 4. 学生の成長を支えるために教職員協働の強化・充実

#### (12) 【協働システムの整備】

週 1 回実施している学科内会議において、1・2 年生の担任が、気になる学生の情報を報告している。また、他の教員からも気がかりな点を出し合い、意見交換している。必要に応じて事務職員に学生の特徴を説明し、対応時の配慮を心掛けてもらうようにしている。

### (13) 【FD・SDの推進】

学科内でのFDとして、アンケート結果を分析する会議を実施する予定であったが、27年度は実施できなかった。

### (14) 【IR（機関研究）の充実】

全学的な取組となる教育研究活動等に関する情報の「分析結果報告書（IRレポート）」（仮称）について、取りまとめ機関と連携をとりながら、また、学科教員のなかで担当を設けて進めていくようにする。

## 〔Ⅱ．学生支援〕

### 1. 体系的・組織的・効果的なキャリア教育・進路支援

#### (1) 【就職先との連携】

就職先への訪問調査としての採用お礼訪問は、先方の評価が固まる時期を見計らい、就職1ヵ月後から2ヵ月後までの訪問活動を通じて情報収集に努めた。必要に応じて責任者に面談を依頼している。また、離職状況の把握を組織的に行っているわけではないため、今後は卒業生の動向調査を精力的にしていくことも検討する必要がある。

#### (2) 【キャリア教育の充実】

該当科目が2年前期の授業であるため、どうしても就職活動・編入学指導といった直面する課題に対するハウツウに留まり、学生の抱える課題に向き合う授業にはなっていない。短期大学という2年間のなかで、求められる基本的資質や社会性が身につくには、授業内容に何を投入するのが適切なの、学修成果を授業内容と関連付けて明確にする必要がある。また、キャリア教育のどの部分に弱みがあるかを改善点に反映させるとともに、各自の強みを自信に変えられるようなキャリア教育を目標に取組む必要がある。

平成27年度の就職先で公務員として採用された者が3名いる。公務員対策講座への受講者はいないが、今後は積極的に参加を促していくようにする。

#### (3) 【個別支援の強化】

科会を必要に応じて週に複数回開き、共通理解を深めた。心身に問題を抱える学生について家族と連絡を取り、また保健室との連携を行った。科会において、主務者及びアドバイスをしていく役割を分担した。心身に問題を抱える学生については、心身の状況に配慮し、学習および学生生活の状況を把握していくよう心がけた。学期ごとに全員を対象とした個別面談を行い、学生の戸惑いや悩みの早期把握を行った。

### 2. 学生生活を支援のための、施設設備整備とサポート体制の充実

#### (4) 【学生会活動の活性化】

学生会活動については、学生会の役員として活動をしている学生が過重にならないように様子を見ながら、声をかけるなど見守りを行った。また、大学祭や球技大会のときには、クラス全員が参加できるように、そして、担当する学生が活動しやすいように、

適宜話を聞くなどサポートをし、学生会活動が活発となるように働きかけている。

入学時オリエンテーションで2年生から1年生へ学生生活の概要を説明し、学生会活動に積極的に取り組むように指導した。

#### (5) 【ボランティア活動の活性化】

ボランティア活動としては、学科の GP 活動がある。GP 活動を学生主体として、自主的に企画・運営ができるように学生を指導していく必要がある。班による活動回数のばらつきや活動成果がみえないことを解決するために、計画の段階から担当教員が関与し、活動の充実をはかりたい。そして、年度末に各班の活動をまとめた報告会を検討したい。また、先輩・後輩との連帯感や社会性・協調性が養われることから、今後も学科の重点的取組に位置づけていく。

Web ボランティアを通してのボランティア回数が昨年よりも減少しているが、GP 活動の中には Web ボランティアシステムにのらないで実施しているものもある。せっかくの活動実績がデータ化されないので、教員のきめ細かい指導が求められる。

#### (6) 【障がいのある学生等に対する個別支援の強化】

2年生に1名、車いす利用の学生がいた。自力での歩行は全くできないわけではないが、受験の時から学生への配慮を開始しており、担任が中心になって、入学式、卒業式の際に、通路、座席等の配慮を行った。学科内にエレベーターがないため階段の昇降や、教室間やトイレへの移動など、全てにおいてクラスメイトがサポートをした。

#### (7) 【図書館設備・環境の改善】

就職に関する図書コーナーを学科に整備した。今後は、ビジネス分野やソーシャルワーク分野の図書の充実を図っていく。平成 28 年度予算にビジネス分野の図書の購入を計上した。さらに、学生の効果的な図書館の活用となるような検討が必要である。

#### (8) 【奨学金制度】

富山県介護福祉士等修学資金制度の説明会を入学式後の学科オリエンテーションのときに行い、保護者へ利用を促した。予算要求時には、特別奨学生制度の検討もおこなった。

#### (9) 【通学の利便性向上】

学生駐車場の利用は、委託訓練生については、運転に慣れていることや家庭の事情などから、1年次から許可するなどの配慮をしている。

### [Ⅲ. 地域貢献]

#### (1) 【地域理解の増進】

総合的研究において、研究テーマの一部に地域の問題を取り上げるようにした。また、地域連携センターによる公開講座では、その地域の課題を取り上げるなどして地域理解に努めてきた。

#### (2) 【ボランティア活動の活発化】

ボランティア活動の単位化については、科目「ボランティア演習」を1単位の選択科目としているが、全員が履修している。就職や進学に当たっては、社会活動としての実績として挙げていくことができるよう、指導していきたい。

#### (3) 【公開講座等の充実】

福祉学科公開セミナーの対象は広く県民を対象としているが、日常生活に役立つような内容にするなど、さらなる改善が必要である。また、チラシ・ポスターを作成し、関係機関に郵送しているが、県民に広く周知できるように効率的・効果的なPRに検討しなければならない。参加率を今よりも10%にアップするように努力していきたい。

中学生への出前講座は、「14歳の挑戦」事前学習や「福祉」に関する総合的な学習、あるいは「命について考える講演会」「職業について学ぶ講演会」として実施している。今後も中学生に福祉や介護をわかりやすく、また、楽しく学ぶ機会を提供し、もって将来的な福祉・介護の仕事の選択をめざすきっかけにしていく。高校への出前講座もおこなっており、こちらも職業選択ならびに進路指導の一環として活用してもらっているものである。

「介護技術講習会」を平成27年度7月～8月にかけて、4日間の研修として2回にわたり行った。それぞれ32名の受講者であった。この講習会は、介護福祉士の国家試験の実技試験の免除のための制度として行われるものである。今年度で終了となった。

#### (4) 【県内大学間連携の強化】

富山県介護福祉士養成校協会の会長校ならびに事務局として、富山福祉短期大学など県内3つの養成校と連携した。

#### (5) 【高大連携事業の強化】

高校生への出前講座を富山県の補助事業として実施した。目的は、高校生に福祉や介護をわかりやすく、また、楽しく学ぶ機会を提供することで、福祉・介護分野に興味・関心をもってもらうとともに、将来的な福祉・介護への進路をめざす生徒を増やすことである。今後は福祉系の科目を学んでいる生徒からだけでなく、広く教養の形として出前講座を希望してもらえるように働きかけていく必要がある。高校教諭との連絡会などで関係を密にし、参加した教諭をパイプに受入先の拡大を進めていきたい。

また、富山県からの補助事業として、養成校と高校教諭との担当者会議を平成28年2月に実施した。福祉・介護の現場における最新の状況を高校の教育現場に提供し、それ

により情報共有を図ることで今後の連携を高める機会とし、養成施設・学校・事業者の相互理解を深めることがねらいである。

#### (6) 【地域関連研究の推進】

富山県や県内市町村の地域課題解決・活性化のための研究や協働事業を平成 27 年度は実施できなかった。平成 26 年度に富山第一銀行の助成を受けて実施した「射水市における高齢化率の高い射水市沿岸部固有の福祉ニーズの把握」を継続させていきたいと考えている。大学コンソーシアム富山からのテーマを取り上げることも検討する。

また、富山市内の特別養護老人ホームが毎年実施している施設研究発表会へ招かれている。そこで出されたテーマをもとに、施設と協働で研究できないか働きかけていきたい。介護人材の不足解消のためには、介護業務の専門性と効率化を調査研究することも重要であるとする。

#### (7) 【県内産官学連携の促進】

富山県介護福祉士養成校協会の事務局校として、富山県老人福祉施設協議会、富山県介護老人保健施設協議会、富山県介護福祉士会など、業界団体や関係機関、富山県厚生部厚生企画課など県内産官学と連携し、介護人材の確保や介護福祉士養成教育における情報交換などを行っている。

今後は、富山市との連携協定に基づく協働事業の促進や地域課題の解決への貢献、経済団体や福祉団体などの諸団体や各種施設・事業所・企業等との連携の強化を行いたい。

#### (8) 【本学の地域連携体制の整備・強化】

学科内の地域連携センター委員の情報をもとに、センターとの連携体制の強化を図っていく。

### [IV. 入学者の確保]

#### (1) 【アピール・ポイントの明確化】

学位授与方針をもとに、目指すべき人材像、教育課程・編成方針を、高校生・保護者、高校の教員を対象に、ポイントを絞って分かりやすくした。アピール・ポイントは、社会変化に対応した教育課程と多彩な資格、富山国際学園の強みを活かした教授陣、福祉学科を特徴づける充実した学習環境の 3 点である。

#### (2) 【広報対象別アピール・ポイントの整理】

学科改編について全学の協力の下で取組んだ。平成 28 年度からスタートする学科改編の A3 二つ折りのカラーパンフレットを作成して広報に努めた。また、学科の概要を大きく変更し、学科改編によって学科の教育がどのように拡大したかを紹介するものになった。パンフレット作成にあたっては、入試広報・事務部と協議しながら進めた。

卒業前に、一人ひとりの学生の思い出や満足感をその顔写真とともに玄関前に廊下の壁面に掲載した。外来者も訪問の際には、立ち止まって写真とメッセージを見ていた。

このことは、明るくて楽しい学び舎の雰囲気を出すことに効果を生んでいる。

### (3) 【広報対象別広報媒体・手段・方法の整理】

中学生や高校生への出前講座でも活用できるように、学科で汎用性のあるパワーポイントを作成し、目的や対象別に応じてスライドを改編することができるように工夫した。目的・対象別に応じた内容の整理をし、今後も引き続き積極的な広報活動が不可欠であると考えている。

### (4) 【多様な入学試験の実施】

自己推薦入試は若干名の定員のところ、4校から5名の出願があり、受験につながった。その結果、5名全員が合格し入学するなど、一定の成果を挙げる事ができた。

### (5) 【富山で学ぶ魅力のPR】

介護実習先を石川県で4か所（特別養護老人ホーム2か所、介護老人保健施設2か所）、新潟県で2か所（特別養護老人ホーム1か所、介護老人保健施設1か所）増やすべく施設に協力を求め、手続きの準備を行った。介護実習施設の確保をすることは、県外の学生に対しても積極的に富山で学ぶ魅力を伝える機会となるようにしていきたい。

## [V. マネジメント体制]

### (1) 【自己点検・評価によるPDCAの実質化】

昨今の社会情勢の変化やそれに伴う高校生の「介護福祉士離れ」を受けて、教育課程と取得資格の拡大を柱とした学科改編に取り組んだ。平成26年度中から学科の将来構想に関する検討会議を何度も重ねて福祉学科の将来構想をまとめ、「新しい学び」「多彩な資格」「多様な進路」をキーワードとした改編を、平成28年度入学生から適応することとなった。具体的には、介護福祉分野の学びはそのままに、社会福祉士の資格取得を目指して四年制大学へ編入学を目指す「ソーシャルワーク分野」と、シニアビジネスや福祉起業などを見据えた「福祉ビジネス分野」を新たに加えたものである。そして、平成28年度入学生から定員を70名から60名にすることを決定した。

### (2) 【FD/SD活動の強化】

SD研修に関しては、毎回出席した。FD研修の開催日が2年生の介護過程実習と重なっていたため、巡回担当外の教員が出席した。

### (3) 【教職員協働の強化】

毎週定期的に行っている学科内の会議の結果を適宜事務職員とも情報を共有することにより、強化を図っている。教職員のICTスキルに関しては、学科内のICT専門の教員によって速やかに対応している。

### (4) 【研究力の強化】

「総合的研究」は、学科教員により査読を行っている。指導担当教員が査読を通して、

個々の研究力の強化に役立てている。また、中間発表での教員からの質問を通して、教員間での研究力の強化につなげている。

**(5)【新・経営改善計画の実施】**

平成 27 年度は富山県との委託事業に積極的に取り組み、外部資金を活用するかたちで一定の成果につなげた。

**(6)【学内経営資源の有効活用】**

生活指導として、行事や学期の節目に随時、各教室、玄関、ロッカー室、トイレの清掃を学生に指導した。また、省エネのための夏季及び冬季も含めた節電・省エネルギー対策に教室内に掲示をし、授業中に適切な温度管理をするよう指導をしている。